

S: 状況

「古文書」のみが:

- 日本国民が江戸時代以前から各地域にあった寺子屋制度等により「識字率」が世界最高峰の「文明国家」であった「事実」を語る。
- 世界人類に誇る「知的財産」の「証拠」となる。

V: 判断

- 廃棄されている:
今まで存在してきた多くの古文書が、民家の蔵・地域資料館・公民館・図書館・元小学校等の片隅で死蔵、調査される事無く「ゴミ」として廃棄され続けている。
- 「古文書」の調査・補修が出来る人材、それを育成する環境が減少。(10年後では不可能 [現場](#)・[詳細](#))

C: 中心概念 日本・地方の活性化(創生・雇用)は「**古文書の管理**」から



- 「高齢者方や女性」に適する手作業。(補修作業・[デジカメ撮影](#))
- 博物館・郷土資料館の充実。(観光資源・[災害対策](#)・郷土愛)
- 海外からの受注。(史料補修者のプロ化)
- 「生きがいの創出」「老化の防止」(医療負担の軽減)



I: 具体案

- 官について: 担当は各県内(県市区町村史編纂・郷土資料館等)と[全史料協](#)・国文研等既存の情報を基に連携して情報の収集。作業人員は各役所の高齢者情報の把握部署から人材募集。
- 民について: 募集された高齢者・女性方への作業適正の確認と技術教育。
- 予算: 10年間予算 [900億円](#) ([90億円](#)/年×10年)
全国 1都1道2府43県に網羅。

P: 実行計画

- 2016年度中: 情報収集のため、左案に基づき各地域の、過去の古文書の所在の情報、現時点までの古文書調査のデータの収集を開始。10年計画。
- 「調査・情報収集」「補修」「デジカメ撮影」の各作業仕様書の作成とそれを指導できる技術担当者の育成。指導、教育して各県毎に配置。
- 作業場所: 各地域の公共施設等。
(駐車場・エレベータ・空調等…力作業の軽減)